

GR 白雲郷 とりゐ



大鐘楼落慶記念号

38

昭和52年 2月15日

宗教法人
白雲山鳥居観音

表紙説明

宗教法人 鳥居観音本堂
白雲山

- 境内 約30万平米。
- 春は花から花へ美の連続です。
- 秋は紅葉が染め出されます。

とりゐ第38号目次

表紙	白雲山の境内と説明、目次	
大鐘楼建立に当って	平沼桐江	一
道光禪師御法話(其二十)		二
西遊記(其三十二)	岡部千三	五
田舎医者(其十八)	見川鯛山	八
奉安者芳名		十一
大鐘楼建立協賛各位芳名		十二
鳥居観音だより		二十二
裏表紙	鳥居観音案内図	
春の行事案内		



大鐘楼落慶に当って

平沼 桐江 八十六翁

四方有縁の皆様、益々ご健康に、わたらせられてお
すごしのことと、心からおよろこび申し上げます。

私も本年、八十六才となりましたが、お蔭様にて
無事、日々をすごさせていただけいておりますのは、
観世音菩薩のご加護と、感謝いたしております。

昨年の夏に着工した、大鐘楼建立の工事も、お蔭
様にて順調に進み、この五月には落慶式が挙行でき
る運びとなりました。

この設計は、かつて、バリ島で見た。椰子の葉
で、葺いた、鐘楼の絶妙な型に深く感動しましたの
で、その型をとり入れました。

建立地 参道中腹 唐傘型東屋の地

高さ 十一米 五角形 五本柱

鐘 口径 一・二米 高さ 一・七米

さて、当山も開創以来、四十余年の寺歴を経て、
この頃は、日々参拝者も多くなりました。

今回、大鐘楼の建立によって、一そうご縁が深く
結ばれることと信じます。

昨年辰年に着工いたし、本年巳年の春に落慶でき
ますことは、まことに縁起もよく、梵鐘の妙音は、
やがて、白雲山峽に鳴り響く時、人々の心は清浄、
菩提心を喚起されることと信じます。

私の最後の悲願が、役員各位を始め、四方有縁の
方々のご支援、ご厚情によりまして、完成できます
よう、謹んでお願いを申しあげます。

時あたかも山内は春らんまん、つつじを始めいろ
いろの花が、見頃と思われましますので、ご探勝下さい
ますよう、申し添えます。

台 掌



(其の二十)

禪の宗意から仏教を話す (その二)

成仏すると云うことも、他力ばかりではなりません。各自に成仏するところの、本質を持っているから他力になれる法もあり、自力になれることもできません。要するにこの本質を持っている。それに大自覚を与えるのが仏教の本領でなければならぬのであります。

大乘仏教の教旨は、みんなおたがいの精神のおくには、仏とも神とも変わらぬ、りっぱな本質をもっているから、それを自覚させるための指導なのであります。歌に、

み仏の教えの道は、とにかくに

清き心に なれとこそあれ

とあります。

仏教は研究すればするほど、一代かかってもわからない、広大深遠なものでありますが、しかし、要領をいうと、清い心に立ちかえる……ということになります。すなわち、自浄其意、是諸仏教であります。この浄き心を、仏心とも、仏性ともいいます。

そこで、これからこの点について、お話を進めたいと思えます。

それから仏教で、成仏ということばをつかいます。が、このことばには、妙な連想、誤解がありますから、それを一応申し上げておきます。

成仏ということばをきくと、なんだか陰気臭く思っている人がありますが、それは大きな心得ちがいで、みなさんは位牌さまになったものだけを仏と思ひ、かつ、そういっておりますが、それは、死ぬことと、成仏とを一しょにして、しかも死ぬことがきらいなために、成仏ということが縁起がわるいと考えることであって、これは大きな誤りであります。

そもそも、成仏ということばは、略してありますので、原語では仏は仏陀というのであります。仏陀になるということばを、略して成仏というのであります。さて、その成仏ということはそれならどういふことかと申しますと、訳して「覚者」という、すなわち「覚った人」ということで、いいかえますと、「自覚者」とか「目覚めた人」ということになるわけです。

さて、それならば何を覚ったか？ 何に目覚めたか？ ということになりましたが、それは自分の本来の本姿、仏心に目覚めることであって、それが仏陀ということばであります。本心に目覚めた人になることを、成仏したということばであらわすのでありますから、この意味にとっていただきたいのです。

どうも成仏というのと、やはり仏壇入りをすることのように思つて、青年たちには、とかく縁の遠いことのように思われたり、縁起がわるいと思われたりします。言いかたをかえて「自覚せよ」というと、そのことばには喜んでこたえますけれども、実は同

じ意味なのであります。

それで、仏教で成仏をするということは、大自覚者になるということばで、その大自覚者の模範が、すなわち釈尊であります。だから釈尊のことを「覚皇」とも申します。名古屋の覚皇山の名は、それからとられたもので、この釈尊の大覚に、われわれも導かれていこうというのが仏教の教えであり、それは、すべての人はそこにいけるだけの素質をみな持っているかであります。その道理をお話していこうと思ひます。

二

心の姿といひましても、もとより無形のものでありますから、丸いとか、四角いとか、いうわけにはいきませんが、仏教ではどういふふうに心をさばっているかと申しますと、これを大別して、二とおりに見わけます。それは仏教学専門のことばになります。一方を「真心」といい、他方を「妄心」といっております。さてその「妄心」の方は、妄想動乱の心をいうのであって始終、念ねんい動ずいている姿であ

ります。故にこれをまた「散心」ともいまして、すなわち、凡夫根性のことをいっているのであります。

現に私どもの心は、朝から晩まで、目がさめると欲しい、惜しい、憎い、可愛いと、有相無相、動きどおしの妄想動乱のみであります。それが先から、先にたどり、枝葉を生じて、動亂し、さいげんがありません。ある書物には、妄想のはげしき者は、一昼夜に八億四千念も動くと書いてあります。それほどわれわれのこの心は散動しております。そのたえず動いている妄想心をとらえて、自分の本心のように思つて、おれの心もちがこうだが、おまえはああだというように、衝突ばかりしている。これは、ああ思い、こう思う自分の妄想を、自分の本心だと思つているからであります。けれども、それは本心ではありません。ちょうど、これは番頭をとらえて主人だと思つているようなもので、ほんとうの主人公ではないのであります。

ところで、それが妄想動亂で、ただ動くだけならよいが、その動くあいだに、非常な危険性をはらん

でるのであります。

それを積尊は遺教経に、

「この心の恐るべきこと、まず毒蛇の如し……」

と申されております。

日本で毒蛇といへば、まず蝮まむしというのを恐れますが、印度では長さ一メートル余りもあるコブラという猛毒を持つ蛇がおります。年々これにかまれて死ぬものが数千人におよぶと云ふことでもあります。

ところが、それほど猛毒をもつコブラも、お釈迦さまには、なついたということが伝わっております。

だから仏さまの周囲のかざりには、コブラがすべて用いてあるのも、右の伝説からであります。

このような毒蛇を、凡夫のあさましい妄想心の危険さにたとえてあります。

それからまた、悪獸のごとしといつております。

また怨賊のごとしとも申されております。これは日、新聞などで、斬つた、殺したという。問題の人間であります。これを考えますと、人は感情の平和なときは、なんでもないのであります。(以下次号)



西遊記

(其の三二)

岡部千三

通天河(前号より)

「悟空よ、これが、れいかん大王の本当のすがただよ」

「へえ、これが、へんてこりんなばけものですか」と、悟空は、まつたくあきれ顔で云った。

「あのばけものが、こんなかわいい金魚ですか、へえ、ひとは見かけによらないものですねえ。」

「ひとではあるまい。金魚は見かけによらないものかな……。れいかん大王は、もと、わたしのところの池にいた金魚だったがな、かってに逃げだして、通天河へおりて、ばけものになったのだ。」

「わるいやつですね。あっ、そうだ。おししよさまをおたすけしなくては……。」

悟空は川の底へもぐって行って、石の箱をひらき

とじこめられていた法師をたすけだした。

観音さまは、あんしんして、天上へもどった。

八戒、悟浄のふたりも、法師のぶじなすがたを見てよろこんだ。

悟空は、法師にむかって

「ばけもののおかげで、とんだ時間のむだをしてしまった。いそいでいきましよう。」

といいながら川を見ると、川には舟がない。

「あれ、舟がない。こまったことだ、どうしよう。」法師も、かんがえこんでしまった。

そのとき、ぶくぶくと水をおしわけて、一匹の、大きなかめがうかびあがってきた。

「法師さま、そしておとものみなさん、わたしがむこうの岸まで、おともをしましょう。のつてください、このせなかに。」

そう云って、せなかをだした。

「いっしょにのつても、だいじょうぶかな。」

と、悟空が、しんぱいそうに云うと、

「だいじょうぶです。わたしは力もちです。」

と、かめは、平気なようすである。

法師たちは、かめのせなかにのって、無事にむこう岸へわたることができた。

「ありがとう、ありがとう。おかげで川がわたれました。」

お礼を云う法師に、かめは云った。

「法師さま、おねがいがございます。わたくしはれいかん大王にやしきをうばわれて、すむところもなかつたのですが、大王がいなくなりましたので、ようやくにかえれます。これで安心しました。もう一つのぞみがありますので、おきき下さいませ。わたしは、人間になりたいばかりに、七千三百年も修業をしました。けれども、いまだに、ごらんのとおりのすがたです。どうかこのことを仏さまにおはなしく下さい。おねがいます。」

法師は、だまっとうなずいた。かめは大きく首をふって、通天河の水ふかく、ぶくりぶくぶくと、もぐっていった。

それからいく日か、川にそつた道があるいていく

三蔵法師、悟空、八戒、悟浄のすがたが見えた。

法師達の仲間はいつかつかれた足を引ずりながら歩いてると、はるかむこうに立派なやしきが見えてきた。

独角大王

そのやしきを見ると、一同よろこびの声をあげた。しめたつ。なにかたべものがあるぞ」

と、まずよろこんだのは八戒だった。

悟空も、おなががべこべこだった。

法師はだまっていたが、やつぱりみんなと同じであつたらう、白馬の上にゆれるすがたは、なんとなく力がなかつた。

「おししょうさま、八戒のいうとおり、わたしたちも、たべものがほしくなりました。しかし、あのやしきの上には、あやしい雲がいつぱいに、たちこめていますから、ちかづいてはいけません。わたくしが、ほかのところへ、たべものをみつけて参ります。あなたがたは、ここにいてください。」

悟空は、法師たちのまわりに、如意棒でぐるりと輪をかいて、云った。

「この輪から、外へでないでくださいね、この中にいさえすれば、術の力で、ばけものやけだもののできても近づくことができないのです。よいですか、じっとしててくださいませね。」

悟空は、そう云って、ただ一人、とぶように走っていった。そしてべつの家へいき、たべものをくれとたのんだ、けれども悟空があまりこわい顔をしているので、家の人はおくへにげ込んだきりで、なかなか、でてこない。

のこされた法師たちは、いつまでまっけていても悟空がかえってこないで、心ほそくなってきた。夕方になって、さむくなってくるし、いよいよ腹はすいてくるばかりで、だいいちに、くいしんぼうの八戒が、ぶつぶつ云いだした。

「さむいさむい、腹のそこまでこおりそうだ。おししょうさま、いつまでもこんなところにはこごえしんでしまいますよ、風の当らないところへい

きましよう。」

「八戒それはいけないよ。悟空が、輪の中からでるのではないと、云ったのではないか。」

「かまうもんですか。いきましよう。……悟空のきょうだいは足がはいから、ごちそうが手にはいれば、すぐにあとをおってきますよ。」

八戒は、さっさと歩きだした。法師も八戒のあとから、悟空のかいた輪の中からでてしまった。

沙悟浄もでていた。

三人は、とうとう、悟空が行ってはいけない、あやしいやしきへ、はいつて行った。

ところが、そこにはだれもない。どのへやもがらんとして、うすらつめたい風がふいて、きみわるいくらいだ。

「はあてなア。」

「八戒が、そろりそろりと、おくのへやへはいつていくと、白いがい骨が……ころがつていた。そばに、ふつくらとわたのはいった着物が、たくさんおいてあった。

(以下次号)



田舎医者（其の十八）

見川鯛山

鱒（つつぎ）

西洋料理のパンを切るような上品な手つきだった。それなのに、漁師がどなった。

「そっとやれそっと!! 痛えじあねえか。」

「私はそっとやっていますよ。」

「いいや、そうじあねえぞ!! わざわざ痛くやつ

てやがんだ、この坊主!!」

「そんなに、動いちヤア駄目だ。動くと余計に糸がからむ。じっと我まんなさるだ。シントウヲメツキヤクスレバ、ヒモナオサムシですぞ。」

「ぶつぶつ言うな!! 坊主のくせに魚釣りなんかしやがって。」

蛭田象吉はロクな魚の代りにつられた所を痛そう

に、見下ろしながらガミガミ怒鳴ったが、お坊様は一心不乱に糸を解いていった。ところどころその糸が、もつれると、彼はそこに顔を近づけて行って、女の子みたいな可愛い糸切歯でそっと釣り糸をかんだ。そのたびに漁師がわめいた。

「よせっ!! くすぐってえじあねえかよこの助平坊主め」

糸が次々とほぐれていった。お坊様の丸い短い指が、蜘蛛のように動くと、そこからナイロンの釣糸が延びて、その度に、真赤な小さい浮子が、性器のそばで、びくびくとおどった。

「ずいぶん長いな、途中で切ってから巻いとけばよかったのに」

私が云うと、

「いいえ先生、とんでもないですタ。これ。またあとで使います。いっぺん切つて途中で結んだ釣糸じァ、もう駄目ですタ」

お坊様が云つた。

「お寺様はものを粗末にしないのです」

「ケチンボ坊主め!!」

すかさず漁師が怒鳴つたが、お坊様はきこえないふりをしていた。

やがて、釣糸がすっかりほぐれた。だがその尖端の鋭い山女魚針は、蛭田桑吉の急所の皮にぶすつと突きささり、大きなアギが無惨にも突き出ていてぬけないのだった。

「先生みてくれ、この通りだ。いくら俺だって、ここをやられちァ八転九倒だわな」

桑吉が云つた。普通より一転多いのだ、余程くるしいのにながいけない。彼の性器は深海魚みたいにふくれっ面で怒り狂っていた。参考までに私が糸をひっ張つてみると、赤い浮子がびくつと動いて重い手ごたえがあつた。

痛え!! な、なにするだ先生まで。そんなことしたつて、ぬけっこねえだぞ」

深海魚が怒鳴つた。するとお坊様がやさしく魚に云つた。

「あなた辛抱しなさい。先生には先生の考えがありなさるだに」

「なにがあなただ!! 後家みてえな声だすな!!」

「ええ、もうなにもしゃべりません。でもあなたこれっぽちのことでも大の男が……」

「大の男だと? 俺ァ平氣だ、伴めが痛がついてるだけだ!!」桑吉が云つた。

私は釣針の根本をペンチでバチンと切つた。

あとに残つた尖端はコッヘルでははさみ、すうつとぬいた。赤チンを塗り、ガーゼを当て、上からクルクルと繃帯を巻いた。私の治療は、一分間で終つた。

「さあ、これでいい。明日から二、三日、あとは自分で赤チンでもつけておけ」

出来上つた桑吉の性器を私が指でピンとはじいていうと、

「いいえ、私がやります。私が釣ったんですから毎日行って、赤チンつけます」

お坊様が云った。

「いい人なのはこの人は」

「いらねえやい!! 俺ア自分でやるだ、余計な世話やくな」

蛭田桑吉は怒鳴った。そして彼は真白い繃帯をした性器を、うす汚れたフンドシの中へしまい込ながら、私に訊いた。

「銭、いくら払ったらいいべ?」

「百円だな」

「ヒヤク円だと? おめ、そりア安すぎら、もっとうんと取れ」

「そうは取れないな」

「そんなことねえべ、ひでえ怪我だぞ。千円で言え千円で」

「どうしてだ、私ア百円でいいんだ」

「それっぽちア駄目だ、千円にしろ」

と漁師はばかに気前がいい。

「そんなら気のすむようにしろ、私だって、そりゃ多い方がいい」

「ンだともさ、千円だってまだ安すぎるくれえださ、坊主!! おめえが払うだぞ、千円だせ」

向き直って漁師が云った。だが、お坊様は治療代の話が出たころから壁に掛かった視力表に片目を近づき、聞こえぬふりをしていた。

「やい、糞坊主!! しらばくれねえで先生に千円払え!!」

ふたたび怒鳴られると、お坊様がちらっとふりかえり、口の中でブツブツ云った。

「何だと? はっきり云え、はっきり!!」

漁師が怒っても、お坊様は顔色ひとつ変えず、もう壁の方を向いて、今度は別の目をつぶって検査をはじめた。

「こらっ!! おめえはトラホームか。さ、おとなしく銭を払え!! 如何うしても払わねえたら、ヤスで頭ぶっ刺してくれろぞ!!」

(以下次号)

大鐘樓建立協賛者芳名

(第一号)

敬称略

三〇〇〇 千円	練馬区	平沼彌太郎	参〇〇 千円	世田谷	山崎まりえ	参〇〇 千円	渋谷区	渡辺	綱雄	参〇〇 千円	文京区	三浦ユクエ
三〇〇〇	練馬区	平沼 とみ	参〇〇	与野市	埼玉トヨペ (株)	参〇〇	大宮市	相島	斌	参〇〇	朝霞市	広瀬 秀雄
三〇〇〇	飯能市	平沼 玉枝	式〇〇	与野市	埼玉トヨペ 観音講	参〇〇	三鷹市	宍戸	睦子	参〇〇	杉並区	江崎 元堂
二〇〇〇	中央区	山名酒喜男 <small>(東洋ハウジング(株))</small>	参〇〇	与野市	千原 元 <small>(埼玉商事(株))</small>	参〇〇	港区	菊池	智	参〇〇	吉祥寺	内田桂一郎
一〇〇〇	大宮市	平沼 康彦	参〇〇	与野市	井上 正雄	参〇〇	台東区	清野	福松	参〇〇	吉祥寺	内田さつき
五〇〇	飯能市	小川 文雄	参〇〇	与野市	福田 忠秀	参〇〇	清水市	松田	正之	五〇	大宮市	森下 忠一 <small>(埼玉コホヤクタイヤ)</small>
五〇〇	名栗村	平沼 宏之	参〇〇	大宮市	第一火災 大宮支社	参〇〇	清水市	松田	幸江	五〇	飯能市	渋谷 文造
五〇〇	清水市	松田 江畔	参〇〇	品川区	寺下 英幸 <small>(ゴールト(株))</small>	参〇〇	清水市	平沢	依子	五〇	中央区	右近保太郎 <small>(日本火災海上保険(株))</small>

五〇	練馬区	平沼杉之助	五〇	所沢市	野村 喜好	五〇	名栗村	平沼 幸一	五〇	品川区	小林 高安	五〇	川越市	山崎 嘉七	五〇	世田谷	石毛 銀一	五〇	川口市	増田 金蔵	五〇	春日部	山崎 収一	五〇	名栗村	岡部 元治	五〇	千円	大宮市	大正海上火 災保険(株)
五〇	名栗村	平沼壽和子	五〇	川越市	原田 愛助	五〇	所沢市	鈴木 欣三	五〇	鎌倉市	後藤 広恵	五〇	板橋区	植村 セツ	五〇	秋田市	八嶋 宣	五〇	板橋区	榎本みや子	五〇	川越市	斉藤 新作	五〇	飯能市	細田 修三	五〇	千円	与野市	長島 恭助 長島千鶴子
参〇	熊谷市	清水 平次	参〇	練馬区	津村 幸代	参〇	飯能市	梶谷 眞一	参〇	仙台市	鬼 春人	五〇	港区	占部 えい	五〇	茅ヶ崎	片岡 正様	五〇	名栗村	岡部 とく	五〇	名栗村	岡部 千三	五〇	上尾市	甘楽 ^{つら} 一夫	五〇	千円	所沢市	大和拓友会 代表黒田 博
参〇	名栗村	佐野建設(株)	参〇	越谷市	河上 作治	参〇	町田市	原 笹江	参〇	中央区	矢島 武久	参〇	千代田	杉山 慎 ^{東光電気(株)}	参〇	渋谷区	広瀬 元夫	参〇	川越市	田中 豊繁 ^{田中自動車商会}	参〇	浦和市	千葉 優男	参〇	大宮市	東京海上火 災保険(株)	参〇	千円	台東区	千代田火災海 上、東京第五 島本 行明

参〇	大宮市	天海	秀夫	参〇	東松山	千原	元	参〇	所沢市	齊藤	定次	参〇	川越市	森田角三郎	参〇	立川市	小林	徳久	参〇	葛飾区	江端	政吉	参〇	行田市	井上自動車 (株)	参〇	飯能市	平岡	文夫	参〇	練馬区	武石鉄之助	参〇	千円	浦和市	井原	隆一
参〇	朝霞市	小森谷菊治	参〇	所沢市	三興製作所 (株)	参〇	川口市	原	正命	参〇	鳩ヶ谷	横山	政則	参〇	浦和市	青山	富治	参〇	大宮市	大宮クリン ン社	参〇	北足立	埼玉トヨベツ ト陸送(株)	参〇	大宮市	正木	三昭	参〇	大宮市	横溝喜久蔵	参〇	千円	岩槻市	石田	照男		
参〇	港区	前田安彦 <small>富士倉庫運輸 (株)</small>	参〇	所沢市	(有)安田中 古車センター	〇	春日部	高林	高一	参〇	中央区	今津	政雄 <small>大栄不動産(株)</small>	参〇	三鷹市	本村	その	参〇	入間市	森	計治 <small>株 モーター タース</small>	参〇	大宮市	望月印刷所 (株)	参〇	蕨市	原	豊	参〇	浦和市	萩原工業 (株)	参〇	千円	鴻巣市	小出	治	
参五	入間郡	岡部	亮介	参六	行田市	馬橋正之助	七六	有志	同 <small>愛鷺会</small>	参〇	静岡県	吉田	耕作	参〇	入間市	川島源次郎	参〇	浦和市	高橋芳次郎	参〇	西多摩	宮沢庚子生	参〇	西多摩	鈴木	嘉三	参〇	練馬区	山口貴美子	参〇	千円	青梅市	荒井慶太郎				

壹〇	岩槻市 古田 勝藏	壹〇	羽生市 岡田 孝徳	壹〇	浦和市 比留間 豊夫	壹〇	上尾市 兵頭 陸雄	壹〇	世田谷 浜口 求	壹五	愛知県 横井 頼之	壹五	中野区 大館 幸江	壹五	中野区 田辺 さわ	壹五	坂戸市 平井 敏治	千円	熊谷市 長谷川 栄二
壹〇	加須市 関口 雅一	壹〇	久喜市 坂田 善次郎	壹〇	久喜市 須田 輝夫	壹〇	飯能市 吉島 力良	壹〇	宇都宮 清水 武	壹〇	浦和市 砂金 清太郎	壹〇	春日部 村田 一雄	壹〇	大宮市 青木 一郎	壹〇	大宮市 松尾 孝治	千円	狛江市 米沢 博
壹〇	入間市 小沢 幸一	壹〇	入間市 高橋 邦子	壹〇	練馬区 武石 武夫	壹〇	大宮市 溝口 邦博	壹〇	川越市 市ノ川 政吉 <small>(有)市ノ川電池</small>	壹〇	与野市 茂留 嶺三	壹〇	与野市 神ノ 電気 <small>(株)</small>	壹〇	大宮市 黒白 寅造 <small>(三陽自動車株)</small>	壹〇	与野市 茂木 喜助	千円	羽生市 新井 茂男
壹〇	大里郡 坂田 秋雄 <small>坂田自動車</small>	壹〇	比企郡 伊藤 自動車 整備工場	壹〇	蕨市 石橋 輝夫	壹〇	北埼玉 浜野 ふく	壹〇	北埼玉 浜野 義文	壹〇	春日部 東部 自動車 工業	壹〇	朝霞市 野島 長二 <small>野島興業</small>	壹〇	和光市 野浦 善八 <small>新和自動車工 業(株)</small>	壹〇	大宮市 高橋 福寅	千円	入間市 宮岡 昭三

千円 〇 深谷市 伊勢宗商事(株) 柴崎宗太郎	〇 草加市 明光電気工 事(株)	〇 神奈川 永井 穎信	〇 三鷹市 武田 武田 しま たけ	〇 保谷市 吉岡 重保	〇 保谷市 長谷川善之	〇 清瀬市 本村 和子	〇 三鷹市 本村規一郎	〇 町田市 小林 君子	〇 浦和市 北島 太郎
千円 〇 大宮市 (株) マネマツ 横田 武松	〇 北本市 堀部モーターズ 堀部 良作	〇 鴻巣市 中根モーターズ 中根 清治	〇 上尾市 矢島モーターズ 矢島 健造	〇 桶川市 長島モーターズ 長島 常夫	〇 北本市 坂森自動車(株) 梅本 福雄	〇 鴻巣市 ハツタ石油 畑津 邦裕	〇 港区 バン(株) ザイ	〇 秩父市 鶴見 弘	〇 秩父市 永井 忠造
千円 〇 浦和市 野口 昇平	〇 富士見 富士見 新井 昭二	〇 富士見 横田自動車 整備工場 横田 稔生	〇 所沢市 (株) 松井自動車 武井郁之助	〇 所沢市 (株) 原仁 商会	〇 北本市 渋井 嘉次	〇 八汐市 森 チイ	〇 高崎市 内田 啓利	〇 秩父市 新井 盛平	〇 秩父市 波田野 宏
千円 〇 狭山市 (株) 粕谷自動車	〇 本庄市 下村建設 (株)	〇 桶川市 関東器油(株) 原口 浩一	〇 与野市 柴崎 まさ	〇 浦和市 守屋 義男	〇 中央区 尼崎 謹一	〇 川越市 昭光自動車 (株)	〇 板橋区 柳川 了	〇 名栗村 町田 芳三	〇 名栗村 浅見逞次郎

壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	千円
世田谷	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村
亀田源次郎	岡部	浅見	佐野	浅見	浅見	野本	佐野角太郎	枝久保 鶴四郎	田島 傅治
	敏	星	正助	富藏	寅雄	貞子			
壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	千円
入間市	練馬区	練馬区	市川市	川越市	浦和市	川越市	川越市	横浜市	世田谷
中村	小林利一郎	和田	折原	新井	自(株)動	整備(有)小高自動車 工場	モーター相川	浜本	亀田
敏三		はる	禎三	栄	ヒルマ		ス	松吾	きん
壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	千円
名栗村	名栗村	名栗村	横浜市	鈴鹿市	下田市	春日部	小田原	愛知県	清水市
町田	石井	吉田	霜田	青山	船津	島津	伊与田	井島	西貝
仲太郎	勲	仙太郎	隆次	政夫	環茂	丈巖	喜一	震岳	多弥
壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	壹〇	千円
入間郡	杉並区	新宿区	横浜市	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村	名栗村
小森	黒川	黒川	金高輝	岡部	平沼	町田	浅見	島田	名栗村
茂	倉好	倉好	代子	仲次郎	石材店	義晴	由之助	台一郎	名栗村
									社会福祉法人 栗園

七 大宮市 常見 武男	七 大宮市 落合 隆二	七 与野市 天野 富雄	七 浦和市 宮野 孝	七 新宿区 山沢 隆一	七 飯能市 真柄 勇	七 鴻巣市 久保田忠治	七 比企郡 新井 和明	老○ 練馬区 岡部 錦子	千円 老○ 狭山市 井上 竹吉
五 浦和市 穴戸 忠治	五 南埼玉 大久保良一	五 熊谷市 佐藤 寿夫	五 大宮市 望月 盛隆	五 越谷市 赤須 文也	七 名栗村 鈴木 実	七 大宮市 平沼 一幸	七 上尾市 大滝 孝	七 大宮市 小島 武夫	千円 七 大宮市 小池 康夫
五 北本市 岡田 功	五 北本市 佐藤 政之	五 飯能市 内田 政治	五 熊谷市 船田 栄	五 川越市 金野 裕	五 吹上町 根岸 栄一	五 北本市 見富 貢	五 浦和市 花木 孝	五 浦和市 小沢 恒介	千円 五 川口市 小凵子 利行
五 浦和市 高野 貞夫	五 川口市 小林 文久	五 上尾市 堀田 博光	五 日高市 嶋田 保	五 毛呂山 岩崎 恒雄	五 浦和市 黒沢 洋一	五 大宮市 黒田 明	五 飯能市 加藤 育三	五 浦和市 岡部 政雄	千円 五 岩槻市 中田 鞞男

五 北本市 芳村 寿久	五 春日部 渡辺 友次	五 大宮市 沢田 実	五 川口市 青木 宏夫	五 蓮田市 新井 義男	五 北葛飾 白井 一郎	五 飯能市 平松 正吉	五 大宮市 黒須 達児	五 大宮市 松本 功	千円 五 上尾市 大川 長信
五 久喜市 松本 義勝	五 浦和市 山崎 一由	五 板橋区 望月 政勝	五 大宮市 諏訪 具久	五 大宮市 諏訪 豊久	五 岩槻市 福田 敏彦	五 騎西町 若林 二郎	五 大宮市 武田 安弘	五 大宮市 佐藤 昇治	千円 五 所沢市 安田 正吉
五 東松山 間山 タイヤ商会	五 浦和市 山崎 一由	五 大宮市 儘田 薫	五 大宮市 荒井 益三	五 大宮市 佐野 良子	五 大宮市 高橋 三男	五 川口市 川口 菱油 (株)	五 川口市 原 唐治	五 入間市 町田 つぎ	千円 五 北葛飾 池田 桂治 池田油店
五 秩父郡 浅見 武童	五 岐阜県 吉村 紫鳳	五 岐阜県 吉村 紫翠	五 浦和市 遊馬 家定	五 三鷹市 松井 吉雄	五 本庄市 自(有)動 車工業 本庄	五 川口市 高橋 和夫	五 川口市 (有)相 良 工業(株) 丸八電機	五 川口市 丸八電機 工業(株)	千円 五 東松山 ムサン電装

五 葺 市	五 戸 市	五 川 口 市	五 戸 市	五 大 宮 市	五 行 田 市	五 北 埼玉 市	五 上 尾 市	五 川 越 市	千 円 五
自動車 商會 (有)小山	車整備 工場 (有)萩原自動	石川 商事 (有)	ハッ 商会 (有)モト	久保田 泰昭	須永 正一	杉田 一男	細野 仙吉	石川 商事 自動車部	入間郡 (株)ハタヤ
五 町 田 市	五 国 分 寺	五 浦 和 市	五 大 里 郡	五 上 福 岡	五 上 福 岡	五 越 谷 市	五 深 谷 市	五 本 庄 市	千 円 五
松村 つたえ	三宮 菊枝	石坂 謹之助	酒井 生力	上福岡 自動車 整備工場	福岡 モーター ス	大塚 整備工 場 光雄	深谷 営業所 (株)下妻 商店	下妻 商店 (株)	越谷市 前田 モーター ス 豊吉
五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 飯 能 市	五 品 川 区	五 横 浜 市	千 円 五
平沼 庄三郎	岡部 宰規	原田 隆三	森本 芳明	浅見 福太郎	町田 軍次郎	野口 定吉 畑講中代表	小林 弘二	小林 静子	横浜市 小林 和朗
五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	五 名 栗 村	千 円 五
佐野 忠雄	浅見 倫一郎	石井 松次	浅見 唯雄	岡部 重信	佐野 甚之丞	小池 昇	枝久 保嘉福	岡部 恒治	名栗村 田島 亀次郎

五 飯能市 枝久保 亀之助	五 飯能市 岡部 千代	五 飯能市 岡部由次郎	五 飯能市 坂本 政香	五 飯能市 坂本 繁夫	五 所沢市 小沢 寿男	五 飯能市 岡田 恒輔	五 名栗村 勝又 則夫	五 名栗村 佐野 正春	千円 五 入間市 齊藤 みよ
五 清水市 外岡 梅逕	五 静岡県 望月 積歩	五 清水市 久保田江濤	五 浦和市 新山 溪山	五 平塚市 露木 留吉	五 清水市 杉山 晋水	五 横浜市 小山 義一	五 横浜市 村田 賢治	五 川崎市 宮田 留吉	千円 五 飯能市 枝久保時子
五 名栗村 岡部喜代子	五 名栗村 塩野 利夫	五 名栗村 矢島千鶴子	五 名栗村 岡部 健一	五 名栗村 本橋 正義	五 名栗村 町田 国一	五 越谷市 鈴木 呉堂	五 清水市 今村 秀峰	五 清水市 八木 江堂	千円 五 八王子 佐藤 清人
以上本号掲載 三九〇名 本号未掲載のもののは号 を追って報告させてい いただきます。 ご協賛厚く御礼申し上 げます。			五 名栗村 加藤真太郎	五 名栗村 加藤 国衛	五 名栗村 石井 志げ	五 名栗村 加藤 芳朗	五 名栗村 竹沢 算富	千円 五 名栗村 石井 富山	

鳥居観音だより

観音講増強のおねがい

鳥居観音講も篤信各位の御熱心なご協力によりまして、数十の講が結成以来、年々ご来山いただいておりますが、信仰という、つよい柱によってご協力いただいで、結成されて参りました。

信仰というものは強制的には参りませんが、よく牛に引かれて善光寺参りという、例話がありますが篤信家のお骨折りによって、理くつなしで、お仲間ができて、好季節又は、都合のよい時にご参拝いただくのがよい方法と存じます。

ご参考までに講規の概要を記して見ました。

一、目的

この講は鳥居観音講と称し、鳥居観音を信仰奉賛する者を以て組織する。

講員は鳥居観音に参拝して信仰を啓め、講員相互の親睦を深めることを目的とする。

一、組織

(1) 本部は鳥居観音内におき、各講元との連絡を密にする。

(2) 本部には部長一名、事務職員若干名をおく。

(3) 各地区に講を設置して、各講毎に講元をおく。

(4) 講員数は、任意の数を以て組織し、その数は、制限しない。

(5) 講元は本規約に従い本部と講員との連絡を密にして、講員の増加を図りながら信仰を啓め円満な発展につとめる。

(6) 講元（代理人）は諸行事に努めて参拝のこと。

(7) 講元は講及び役員住所、氏名並に講員の数を本部に報告する。講員数に移動が生じた場合も報告のこと。

一、講の祈禱料 一金五百円

祈禱料は参拝の折に本部に納入し、本堂に於ける祈禱に参列し、ご法話を受ける。

一、参拝

(1) 本観音講は年一回団体参拝又は代参をする。

(2) 団参の時は講旗を使用する。

(3) 講員には徽章を使用して引卒の便を図ること。

一、団体参拝の特典

(1) 団体参拝者は祈禱札が受けられる。

(2) 団体参拝者に限り当山の諸施設を無料で拝観で

きる。

(3) 団体参拝者は観世音センターの入場料は一人につき三割引、小室使用の時は規定の三割引とする。

但し土、日祭日は右を適用しない。

尚十二月、一月、二月、三月の間は入場料半額とし

小室使用の場合も半額とする。

この期間中は、土、日、祭日も含めて取扱う。

以上の規約ですが、あくまでもこれにとらわれず
気らくに講的な仲間づくりから出発して、次第に健
全な講中に発展するよう、講元、副講元及び其の他
の地区担当の役員の組織をもって進めていただきま
して、講中が増加しますようお願いいたします。

観音様のご利益

お忙しい観音様



篤信者のご一行

観音信仰が古くから興り、現在尚盛んに信仰されていることは、その人その人に相応した願いがかなえられた、よろこびと感謝心によつて、それ

が支えとなつて、生活の中にまで日夜とけこんで、朝夕の祈りに南無観世音菩薩……と唱えることを習慣とする多くの人があります。

観世音菩薩とは、釈迦如来がこの世に下された、あらゆる慈悲を持たれた仏様として信仰されているのであります。

当山にも各方面から観音様のお慈悲におすがりして、そのご利益りやくをお願いされて、そのお願いがかなつたと云つて、以来年に一度は勿論、何回も来山される方が多くなつております。

例えば商売も信仰によつて順調にして、得意先も拡張されて来た。

又子供さんが病気で夜もねかされなかつたのが、観音さまを信仰したら、その夜から楽になつてよくねむれた。

観音信仰を常に心に抱いておられた方が、ある夜夢の中に観音が現われて、西方を暗示されたので、鳥居観音へ参つたところ、正しく本堂の正面にあるご本尊の聖観世音菩薩だつたと、その不思議なる、

ご縁に以来参拝される方もあります。

婚期がせまつてゐる女性が、観音信者に案内されて参拝されました、その人が、その年のうちに婚約が成立したと云うお話は少なくありません。

又仕事関係でも、都合がわるいことが生じても、観音信仰によつて、それが変更されて助かつたと云うこともあります。

ご承知の通り観音信仰は、宗派と云うものがありません。宗派にかかわりなく多くの人々が参拝なさつて、ご協力いただくようになりました。

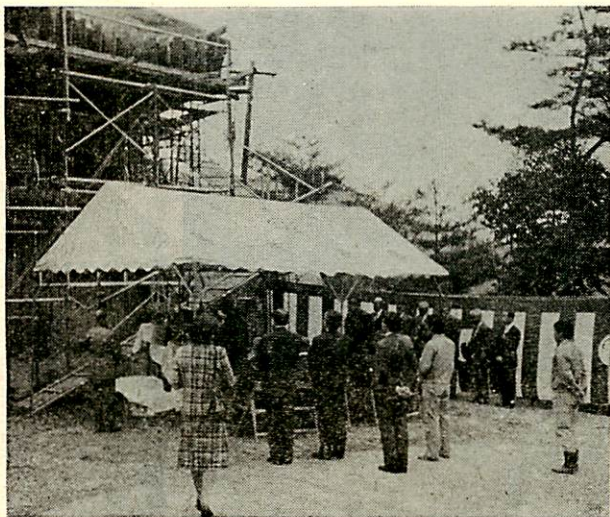
終了した行事

十一月六日 大鐘樓上棟式 十一時

現地は傘型東屋のあつた所で、七月二十六日に、地鎮祭を行つてから、三ヶ月にして上棟式が執行されました。

発願主平沼先生ご夫妻を始め、導師小林老師並に施工主三信工業関係来賓多数の参列があつて、盛大でした。

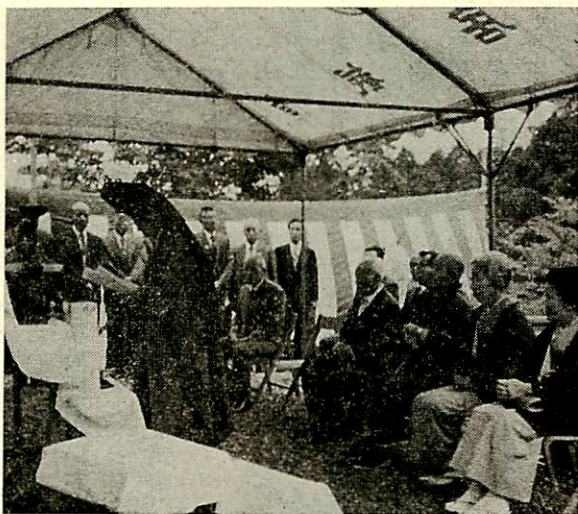
紅葉は、白雲山全山に染め出されて、列席された方々は自然の絵筆の神秘に、ここかしこ目を見はっておられました。



上棟を見上げる人々

鐘楼の棟に一本の柱が立てられ、それに飾られた、五色の布がたれて、時折風になびくのもこの式を寿ぐかに見えました。

式終了後は庫裡に於て祝宴が開かれました。



式場に参列の人々

秋季例法要

十一月十七日、午前十時から秋の例法要が執行されました。開祖平沼先生御夫妻を始め、関係役員、



救世観音堂宇の参拝人

篤信各位多数ご参列いただきました。

それに講中の団体も見て盛大でした。紅葉は盛りで、美極に達していました。

大鐘楼建立協賛状況

大鐘楼の建立地鎮祭を七月二十六日に挙行いたしました。先趣意書を以て各方面に広くお配りをお願いしたり、当方からも直接お願いいたしました結果、そ趣旨をご理解いただいて、多数の方々からのご奉納が参りまして、寺務局は感謝いたしながら、尚目的達成にお願いすべく努力して参りました。そして尚努力をつづけさせていただきます。

新年祈禱も盛大に

一月元日 午前十時より

一千五百本に及ぶ新年御祈禱を執行いたしました。導師は有馬老師に、尾尻、鯨井二老師が随喜で、盛大、げんしゆくに行われました。

川越から毎年来山されます。原田愛助様のご一行を始め、新友講の斉藤様ご一家、青梅の小峰、荒井様、平沼玉枝様御一家等が見えて、例によって庫裡で、新年の祝宴を張りました。

祈禱札は直ちに各方面へ配達いたしました。

春の白雲山とこれからの行事

春の白雲山は、いつも申し上げておりますが、実に自然がつくり出す美の複合の連続であります。

二月中旬、本堂附近に沈丁花の香が漂います。それに合わせるように、れんぎょの黄の花が咲いて、春の魁を知らせます。

三月になると、山すその梅の蕾がふくらんできて、花一輪一輪と数を増してくる頃、吉野ざくらの蕾がふくらんできます。

四月の上旬になると、梅は真盛りとなり、さくらの花があとに続くのです。

その頃、三ツ葉つつじが、紫の花を開きます。

花から花へ、山の美観は五月へと、そして花の色も異ってきます。

山吹、椿、紅つつじ、雪柳と咲いて、参拝の皆様を毎日おむかえます。

山内の新緑は、落葉樹の種類によってその色が異なります。みどり、黄みどり、銀ねずが燃えます。

春の行事

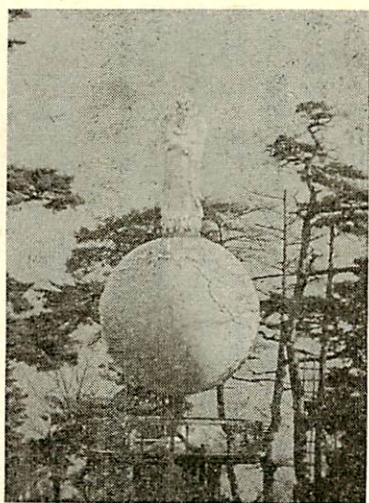
二月三日、午後三時本堂にて節分法要、福豆を袋入りにしてお分けします。

三月二十一日、春分の日 午前十時法要

四月十七日 春季例法要 午前十時

五月十四日 大鐘楼落慶式 午前十時三十分

四月一日から五月末日までつつじまつりをいたします。



花の中の平和観音

新しく専任僧として

尾尻天外老師を迎えて

当山の専任僧として五年にわたって、法務を担当していただきました、小林高安老師が、昨年末九日突然脳出血で飯能中央病院に入院、病院の方々の手厚い手当と関係者の心からの看護も空しく、十六日午前十時二十五分遷化なさいました。

在任中は皆様から信頼と厚いご支援を賜り洵にありがとうございました。

大切な法務が心配されたのですが、空白を生じることもなく、仏縁と申しませう。数日の後には、総持寺様のご推挙によって、新しく、専任僧として、全く適任のお方が就任なされました。

尾尻天外と申されます。
よろしくお願ひします。

ご挨拶 尾尻天外

この度、ご縁をもちまして、鳥居観音にお仕えさせていただきますことと相成りました。何分にも未熟不肖者でございますので、その当に耐え得るやが案じられますが、この上は、観世音菩薩のご加護のもと、開祖平沼翁並びにご内室さまのご庇護を併せ且つ関係諸賢位、信徒のご指導ご協力を賜わりまして、専心奉仕に邁進いたしたき所存でございます。何卒、よろしくご教示ご後援のほど、伏してお願ひ申し上げます。

右誌上をかり、ご挨拶まで申し上げます。

合掌

書名 現代に生きる観音経 一、金巻千円
図書紹介 申込先 兵庫県福崎町駅前 西正寺
光山 善雄 宛

とりる 第三十八号 発行日 昭和五十二年二月十五日
編集兼 埼玉県人間郡名栗村 鳥居観音 岡部 千三
発行人
印刷所 浦和市仲町二一八―十五 武州印刷株式会社
発行所 鳥居観音 電話〇四二九七―九一〇四一七

白雲山

鳥居観音
観世者センター
案内図



春 の 行 事

- つつじまつり 4月1日
----- 5月31日

全山つつじ—梅—桜と花から花へ
美の連続です。

- 春季例大祭 4月17日

本 堂 10時

玄奘三蔵塔 11時

救世大観音 11時30分

- 大鐘楼落慶式 5月14日

現 地 10時30分

夏 の 行 事

- あじさいまつり 6月1日—30日

- 塔婆大施餓鬼法要 7月16日

救世大観音堂午後2時